

第19期国立市図書館協議会要旨（第5回）

日 時：平成25年5月16日(木) 午後3時～5時

場 所：くにたち中央図書館 集会室

出席：保坂会長、川廷副会長、長内委員、加藤委員、立入委員、橋本委員、若尾委員

欠席：杉原委員、藤谷委員

議題

*異動等に伴う委員の交代について報告

教職員異動

望月委員退任 杉原委員着任

議会選出委員（総務文教委員会議員交代）

望月委員退任 長内委員着任

*図書館職員人事異動について報告

平成25年4月1日付け人事異動

子育て支援課東学童保育所へ異動 1名

公民館より着任 1名

1 図書館事業報告

館長より平成25年4月から第5回協議会開催日（5月16日）までの図書館事業、および6月実施予定の蔵書点検臨時休館日程等の報告を行った。

2 第二次国立市子ども読書活動推進計画(素案)について報告

策定委員名簿、策定委員会開催経過(今後の予定を含む)、素案内容について説明を行った。

(主な意見)

- ・政策的に庁内の横断的組織でまとめられているようなので、組織が理解できればよいのかもしれないが、部外者が見ると分かりにくい。検証一覧と次期事業一覧が対になっていればわかりやすいのではないか。
- ・第一義的には職員が横断的に何をしてきたか、何をするか・すべきか、努力目標等を挙げていくことだろうが、多くの事業に市民ボランティアの存在がある。職員のなすべきこと、ボランティアの協力を求めることを明確にすべきではないか。
- ・読書という行為は微妙なもの。子どもが「嫌にならない」ように配慮が必要。子どもへの提示の方法等「悩み」の部分が表現されてもよいのではないか。
- ・達成・未達成の定義と理由、経緯が示されているとよい。そこがしりたいところである。
- ・策定主体とそこだけで策定するものなのか疑問がある。図書館協議会に関わ

るのか、関わらないのか、どう関われるのか分かりにくい。

- ・一次計画に対する検証ということなので一次計画を見ながら説明を聞いていたが、本文は対応していないようだ。それに対して分かりやすい形で表現したほうがよい。
- ・数値目標に挙げられたブックトークが、事業内容の一部には表現されているが項目としては挙げられていない。数値目標とするなら、事業項目としたほうがよいのではないか。

3 図書館業務について担当職員より説明(地域資料)

地域資料サービスおよび地域資料ボランティアについて担当職員2名が概要説明を行った。

以上